

令和7年度		日野市立 日野第五小学校		経営重点計画		自己評価シート		令和7年6月公表			
★学校の教育目標							○しっかり学ぶ子　○心やさしい子　○たくましい子			★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）							プロジェクト名「やりたい」を「やってみよう」プロジェクト				
【目指す児童像】							正解のない社会で生きていく子供たちには、学力調査等図ることのできる狭義の学力だけでなく、他者との豊かな関りを通して多くのことにもまれ、タフでコミュニケーション豊かな大人に育てほしいという願いがある。				
【目指す学校像】							①各教員の得意分野や「やりたい」を学校・学年・学級経営にいかす。				
【目指す教師像】							②教育活動の端々に「かつやく」の機会を取り入れる。				
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準							
				取組指標			成果指標				
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	多様性を認め、課題を解決したり困難を乗り越えたりする資質を育む。	話し合い活動を通して、対話による課題解決のよさを、児童が実感できるようにする。	①学級活動等を通して、話し合いの仕方や、合意形成・意思決定の仕方を身に付けさせる。 ②ペア学習、グループ学習、協働学習等の機会を他教科にも広げ、児童が対話によって学習を進めることのよさを味わえるようにする。	4　90％以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。			4　90％以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。				
				3　85％以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。			3　85％以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。				
				2　80％以上の教員が、①②に対する肯定的な回答を行った。			2　80％以上の児童が、①②に関する肯定的な回答を行った。				
				1　①②に対する肯定的な回答が80％未満だった。			1　①②に対する肯定的な回答が80％未満だった。				
	自発的な活動を通して、自らの生活環境を改善させようとする資質を育む。	教育活動の様々な場面における活躍の機会や、集団づくりの機会を通して、自治的な活動の楽しさを実感できるようにする。	③係活動・実行委員制度、異学年交流等を効果的に活用し、集団のために貢献する経験や、企画運営をすることの楽しさや難しさを味わわせる。 ④キャリアパスポートを活用し、自己の強みや可能性、次への見通し等を肯定的に捉えられるようにする。	4　90％以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。			4　90％以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。				
				3　85％以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。			3　85％以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。				
				2　80％以上の教員が、③④に対する肯定的な回答を行った。			2　80％以上の児童が、③④に関する肯定的な回答を行った。				
				1　③④に対する肯定的な回答が80％未満だった。			1　③④に対する肯定的な回答が80％未満だった。				
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	生活に必要な基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。	基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、児童が「できた」「分かった」「役に立った」を実感できるような学習活動を工夫する。	⑤すべての授業において、めあての提示を徹底し、学習のねらいを明確にした構造的な学習を展開する。また、ねらいが達成できたかどうかのふりかえりを確実に行う。 ⑥授業のユニバーサルデザイン化を目指す。特に「視覚化」「焦点化」「共有化」を単元内に意図的に取り入れ、児童にとって分かりやすい授業を創造する。	4　90％以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。			4　90％以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。				
				3　85％以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。			3　85％以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。				
				2　80％以上の教員が、⑤⑥に対する肯定的な回答を行った。			2　80％以上の児童が、⑤⑥に関する肯定的な回答を行った。				
				1　⑤⑥に対する肯定的な回答が80％未満だった。			1　⑤⑥に対する肯定的な回答が80％未満だった。				
	課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育む。	「教える」学習活動から、児童が主体的、対話的に深く「学び」学習を意図的に取り入れる。	⑦生活科・総合的な学習の時間(ゆりの木タイム)を中心に、すべての教科において、児童が課題を追究したり、解決したりする活動を意図的に取り入れ、探究的な学びの楽しさを味わわせる。 ⑧校内研究を通して、自らの考えを広げ、深めることのできる授業改善を目指す。特に対話をすることの必然性を重視し、学び合いが効果的に行われるよう工夫をする。	4　90％以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。			4　90％以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。				
				3　85％以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。			3　85％以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。				
				2　80％以上の教員が、⑦⑧に対する肯定的な回答を行った。			2　80％以上の児童が、⑦⑧に関する肯定的な回答を行った。				
				1　⑦⑧に対する肯定的な回答が80％未満だった。			1　⑦⑧に対する肯定的な回答が80％未満だった。				
社会と未来に開き、みんなでつくる	地域のよさや、そこで生きていることへの愛着心を高める。	地域の教育的資源を積極的に取り入れた教育活動を通して、本物（人・もの）と触れ合う体験を意図的に取り入れる。	⑨全学年で、地域人材や関係機関等、多様な人材と関わりを通して、動機付け・情報収集・まとめ表現等の学習活動に厚みを持たせる。 ⑩学習したこと成果を異学年・保護者や地域人材等に発信する機会を積極的に取り入れ、相手意識を高められるようにする。	4　90％以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。			4　90％以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。				
				3　85％以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。			3　85％以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。				
				2　80％以上の教員が、⑨⑩に対する肯定的な回答を行った。			2　80％以上の児童が、⑨⑩に関する肯定的な回答を行った。				
				1　⑨⑩に対する肯定的な回答が80％未満だった。			1　⑨⑩に対する肯定的な回答が80％未満だった。				
	より多くの目で組織的に児童を育成しようとする風土を育てる。	学年経営を重視し、全児童を全教職員で育成しようとする意識を高める。	⑪学年会や分科会等を通して各教員の得意分野や「やってみたいこと」を積極的に取り入れる等、前年踏襲ばかりに頼らないスクラップ＆ビルドに挑戦する。 ⑫交換授業・合同授業・一部教科担任制・副担任(CO)としての関わりを積極的に行い、学年の全児童をチームで育てていくという教員の意識を高める。	4　90％以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。			4　90％以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。				
				3　85％以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。			3　85％以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。				
				2　80％以上の教員が、⑪⑫に対する肯定的な回答を行った。			2　80％以上の児童が、⑪⑫に関する肯定的な回答を行った。				
				1　⑪⑫に対する肯定的な回答が80％未満だった。			1　⑪⑫に対する肯定的な回答が80％未満だった。				
※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。											